まち さんぽ
街散歩

西新宿

西新宿 "ふれあい"を求めて

超高層ビルに象徴される副都心・西新宿。「眠らぬ街」と揶揄され、自然や人とのつながりなどとは、一見無縁そうに見えるこの街だが、決してそんなことはない。そう信じ、ビルの谷間に残された"ふれあい"を探す旅に出た。

「LOVE」

新宿アイランドタワーのシンボル彫刻——LOVE。超高層ビル群のど真ん中で、ひときわ目を引く存在である。アイランドタワーの敷地内には、この他にも"人間の愛と未来"を共通テーマとした作品が多数置かれている。彫刻の間から、街を眺めてみるのもいいだろう。

神田川&おちゃらかベンチ

新宿区と中野区の境を流れる神田川。特に、北新宿沿いは「神田川四季の道」と呼ばれる遊歩道があり、季節ごとにいろいろな花が咲く。道の途中には、所々に、昔ながらの遊びを図解したベンチが置かれている。

歌う男とツリー

▲平成9年に竣工した東京オペラシティ。新国立劇場やコンサートホール、アートギャラリーなど、芸術関連の施設が並ぶ。サンクンガーデンの"歌う男"の前には、高さ15mのツリーがクリスマスまで展示され、夜にはイルミネーションがきらめく。

恋弁天

◀昭和48年、新宿住友ビルの竣工に伴って設置されたモニュメント。いつの頃からか、この像に祈ると恋が叶うといわれ、平成8年には、出雲大社の神官により、縁結びの霊験を授かった。毎月第3土曜日は恋弁天の日として、縁結び祈願と縁日が行われる。

まず、超高層ビル群を少し遠くから見てみたいと、あえて新宿ではなく、二つ先の東中野で降りてみた。東中野から、神田川沿いに西新宿へ向かおうという計画だ。

通勤ラッシュも終わり、人もまばらな駅を出て、とにかくまず川に出た。「四季の道」と呼ばれる遊歩道を歩き出すと、晩秋の心地よい風が私を迎えてくれる。まずは“自然とのふれあい”。しばらく歩くと、超高層ビル群が、少しずつその偉容を現し始める。周囲の住宅街と、あまりにもかけ離れているせいだろうか。自分が、どこか異次元へ、タイムスリップしているような錯覚を覚える。

遊歩道の終点・末広橋から北新宿に入り、蜀江坂を歩いて青梅街道に出る。ここからは、いよいよ超高層ビルを間近に見る。まず、待ち合わせ場所として有名な、真っ赤な「LOVE」の彫刻を横目に、住友三角ビルへ。ビルの敷地内で、「恋弁天」という文字に足が止まる。近づいてみると、なんと漫画に出てきそうな愛嬌のある弁天像が立っている。そして周囲には、たくさんの絵馬。なんでも、恋弁天にお詣りすると、縁結びで知られる出雲大社に参詣するのと同じご利益があるという。私が良縁祈願をしたことは言うまでもない。これが“神様とのふれあい”。

そして、東京に来た人が一度は立ち寄るという、都庁の展望室へ。眼下に広がる東京の街は、改めてそのスケールの大きさを見せつける。それだけ、この街で一生懸命生きる人々がいることの証だ。そして、そこには必ず“人と人とのふれあい”がある。

しばし、展望室で休憩した後、虹の橋を渡って新宿中央公園にある熊野神社を目指す。昔この辺りには、“十二社（じゅうにそう）の池”と呼ばれる大小2つの池があり、江戸時代には景勝地として、明治以降には大きな料亭ができ、花柳の巷として賑わったという。今ではそんな華やかな面影はないが、境内に残る多くの文化財が当時の賑わいを現代の私達に伝えてくれる。これが“文化・歴史とのふれあい”。

十二社通りを南下し、3年前にできたばかりの東京オペラシティへ足を運ぶ。展望室こそないが、飲食店から見る新宿の夜景には定評がある。また、どこよりも早く、クリスマスイルミネーションが見られるという。

自然、神様、人、文化、歴史――たくさんの“ふれあい”を噛み締めながら、本日の旅の締めくくりとなる、とびきりの夜景とイルミネーションにふれあうとしよう。

参考文献：『東京都の歴史散歩・中』（山川出版社）

十二社（じゅうにそう） 熊野神社

室町時代に中野長者と呼ばれた鈴木九郎が、故郷である紀州の熊野三山より十二所権現を移し祠ったことから、十二社と呼ばれるようになったという。現在は埋め立てられてしまったが、江戸時代には池や大滝があり、江戸西郊の景勝地として賑わった。

雲に呑まれる

新宿中央公園に向かう途中の出来事。今にも、巻雲（けんうん）が新宿グリーンタワーを呑み込まんとする瞬間を撮影。別名・筋雲と呼ばれる巻雲は、夕焼けの時、最後まで美しく輝く雲である。

空へ――

平成3年、有楽町から移転した東京都庁。243mの高さの第一本庁舎は、西新宿周辺の超高層ビルの中でNo.1の高さを誇る。もちろん、45階にある南北2つの展望室からの眺めは圧巻。北展望室からは、毎晩夜景が楽しめる。